

ぶらっとサロン椿通信 令和 4 年 1 月号

今号の椿：開花直前の白玉椿(しらたまつばき)

R3.3.15 撮影



報告:有楽斎

毎週火曜日の午後 1 時過ぎから午後 4 時半ごろまで、朝日 2 丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、一昨年 3 月 10 日から自粛し**現在休業中**です。 作年発行よりタイトルに『椿』を加えました(有楽斎)

【白玉椿 擬雪(ぎせつ)】(京都市下鴨神社) 同神社立て看板より抜粋

光格天皇は、江戸時代寛政五年(1793)三月、御親拝になり御祭料を御奉献になった時、御遺愛の白玉椿の大樹を御神前に御奉献になりました。花は中輪で半八重咲き、花色の白さは格別で雪にもまがうさまで「擬雪(ぎせつ)」と名付けられました。しかし、長年の風雪に耐えず枯淡に達したため、平成 27 年の式年遷宮の奉祝記念として、三井グループから同種の椿が奉納されました。同椿は当神社社家鴨脚家と金工の名手であった後藤祐乗の屋敷(新町鞍馬口・**擁翠園**)にも下賜され、三井家に保存されていました。

下鴨神社本殿の左の摂社・三井神社の門の横にあります

→花は中輪で、半八重咲き
雪と間違えるほど花の色
が白いので・・・



鴨脚家 読めますか？

漢字本来の読み方からは全く想像できない、まるで判じ物のような名字。代々京都の賀茂御祖神社(下鴨神社)の神官をつとめる家が名乗っていた由緒ある名字である。鴨の脚を見たことがあるだろうか。通常は水面下にあるためなかなか見ることができないが、水鳥のため指と指の間に水かきがついており、広げた形がイチョウの葉に似ているといえる。答(いちょう)

初代 後藤祐乗と擁翠園(ようすいえん)の白玉椿



初代 後藤祐乗



天正大判



後藤祐乗 三所物 出典：長州屋



鴨脚家庭園(いちょうけいていえん) (指定)
[京都市左京区下鴨宮河町 個人]

鴨脚(いちょう)家の庭園

この庭園は京都市の登録文化財となっております。鴨脚家は唯一現存する賀茂御祖神社の祝(はふり)(※)の屋敷です。(※)祝(はふり)=神官

→擁翠園(ようすいえん)
立て看板



建物の中には琵琶湖を形どった美しい庭園があると説明板に書かれていましたが、一般に開放されていません。(A 社の所有)

白椿 欺雪(ぎせつ)

純白の花を咲かせる銘木の二代目。「雪を欺く」と書いてギセツと読み、明治天皇の曾祖父にあたる第 119 代天皇・光格天皇の命名とされています。名前の由来は花の白さではなく、吹雪がかかったような白い斑が見られる葉にちなんで名づけられました。接ぎ木が繰り返されたことで、現在、白い斑入りの葉はほとんど見られない。(A 社「擁翠園のご紹介」より、右図に似た椿が掲載されています)



椿寿庵(奈良)の擬雪(ぎせつ)
純白色 八重咲き 中輪
(A 社「擁翠園のご紹介」に似た写真が掲載されている)

←「和みの庭」にはもう一種有り 霊元
天皇の「命名と伝えられる」とあるが